

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを 支えていくサービスとして、事業所独自の理 念を作り上げている。	今は退去した利用者が言った言葉を基にして理念を定めたのだが、今一度この理念 を考えてみようかと会議で話し合った。結果、職員や利用者の心や目にも染み付いてい る言葉であるし、自然に囲まれた、隣近所の温かい見守りなどのすばらしい環境での 楽しさや安心感・みんな一緒等の目指すべき生活がギッシリとつまった言葉でもある ので、今後もこの言葉を大切にしていこうという考えに職員全員一致でまとまり、理念 は継続している。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実 践に向けて日々取り組んでいる。	管理者や職員だけではなく、入居者の方々にも目に入りやすいリビングの両壁に掲 示しているので、安心して楽しい毎日を提供できるように常に意識できる環境である。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々 に理解してもらえるよう取り組んでいる。	『しらかばだより』や『運営推進会議』などで都度説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声を かけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるよう な日常的なつきあいができるように努めてい る。	御近所さんや診療所の患者さんとの朝晩の挨拶やお天気伺いから、散歩時には庭の 花をいただいたり、家庭菜園の果物・野菜をいただいたりと、仲良くさせていただいて いる。又、一人で散歩に行きたい方が職員に気付かれないようにそっと出て行った時 などにはお向さんが見ていてくださり、御主人が電話連絡してくれている間に奥様は ソット付いて行ってくださると、お世話をしてくれます。お隣のワンコに会いに行く事を 飼い主さんが快く思ってくれていることも、私達には本当に嬉しいことです。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参 加し、地元の人々と交流することに努めてい る。	自治会員であり、広報を持つてきてくれたりして交流している。この自治会自体が商業 地域であり、高齢自治会ですので、行事などはありません。しかし散歩は地域中を歩 いているので顔なじみであり、散歩の途中などには時節の挨拶などから、「うちの花畑 も見て行って」等と言ってくれる方が居たりして、毎日の生活の中で普通の交流をして いる。又地元からの入居者は、散歩などの時に知り合いと『元気かい?』等と言葉を交 わしたりしています。警察や消防なども同じ町内会ですので顔なじみになりやすく、何 事にもとても安心です。警察には施設便りをお渡しして、状況を知って頂いてい る。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	『しらかばだより』や『運営推進会議』などでお手伝いできそうな事や気になることなど をお伝えする機会があり、協力は申し出ている所です。又、管理者は認知症キャラバ ンメイトであるので、7月に認知症サポーター養成講座の講師をして、認知症の方を 地域で支える為の最低限の心構えをお伝えしたばかりである。		認知症の方を地域で支えるという事について、今後もサ ポーター養成講座などではたらきかけたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全員が自分を客観的に見つめることが出来るよい機会であるので、全員が事前に自己評価をして、その後2回にわたって全員で話し合っている。当GHIには前向きな職員が多いので、自己評価でハッと気付いた事や外部評価の指摘などはその後のケアをすすめる上で最高の贈り物となっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	3～4か月に一度開催しているが、利用者の毎日の生活ぶりをお知らせしたり、出来事やお願い事（一人で出かけてしまった時の見守りや連絡のお願いなど）をしている。更に高齢者に関わる事でお互いにアドバイスなどをしたりされたりと親しくお話をしながら、町内の高齢者の様子を情報交換する場ともなっている。毎回介護職員も1名は必ず出席しており、皆さんの御意見に直に触れる良い機会であるので、より一層地域を身近に感じているようだ。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	幸いにも町役場生田原支所とは徒歩2分くらいの近さにあり書類を届けに来てくれたり、狭い町内で近所に住んでいる方もおられるので、入居者を良く知っていてくれたりと、遠くで見守っていてくれているのを感じられる環境に感謝している。更に、入居者の認定調査を役場保健師にお願いしているので、より深く見ていてくれている環境である。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	年に一度、この自己評価の時に権利擁護や成年後見人制度についての話題になる。現在は活用すべき入居者は居ないが、将来的には必要となる方が入居してこないとも限らず、いつでも対応できるようにしていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない様注意を払い、防止に努めている。	虐待など無関係と思わずに、無意識に虐待をしていないか等と、管理者はもちろん職員同士も互いのケアについて日常的にアドバイスが出来る環境になることが大切だと感じる。そのような事に関しての情報が手元に入った時には、全職員にも知ってもらうように書類などは目に入るところにおいている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	基本的には利用者も御家族も見学に来て頂き、互いに話をさせていただいてから入居に至っている。しかし地域の方が入居する時には可能でも、遠くから入居される方はなかなか利用者は事前に見学も出来ずに、説明だけで終わっている事も実際である。そのような時には入居後に関係をより深めるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	散歩や入浴時など職員と入居者がしっかりと向かい合えるときに、様々な話をしながらその中から御本人の気持ちを汲み取るようにしている。それはそれぞれ全員が行っていることであり、情報は全職員に会議などで伝えられてよい方向にむかっていっている。又、御家族からも面会時などに本人の気持ちを伝え聞くようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月はじめに写真入りの「しからば便り」と「個人便り」「金銭出納簿」を送らせて頂き、1ヵ月の様子を目でわかるようにお届けしている。又、遠くに住んでおられる御家族でご希望のある方にも数ヶ月分をまとめて送っているが、ととても喜んで頂いている。もちろん来訪時には管理者だけではなく、担当者中心にその他の職員も暮らしぶりをお伝えするようにしている。健康状態の変化などは、状況次第でまめに連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の度に暮らしの様子などをお知らせしているし、ケアプランなどの説明の時などにも、健康・暮らしぶり・家族とのつながりなどについて相談しており、その際に直接ご希望や苦情を聞く機会も設けている。御家族の中には、同居の時に夢中で世話した事を思い出せる機会になったとか、面会時に職員と様々話すことで自分の生活も変わってきたと言ってくれたりとか、その度に聞ける嬉しい言葉に感謝している。職員の元気の元は、家族の感謝の言葉かもしれません。今まで外食などとは無縁だった親が外で食事できる事にも感謝してもらったりしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議だけではなく、毎日の申し送りなどでも伝える機会は設けている。管理者が気付かないところにも気付いてくれ、サポートしてくれる職員には感謝している。『何でも気付いた事は口に出して実際にやってみる、もしダメなら又考えよう』を合言葉にしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況により必要な介護量も介護時間も全く異なってくるので、その都度利用者にとって暮らしやすいように変えて言っている。又、状況が変わって行った時には速やかに元に戻すようにしている。その機会は、職員が主に判断しており、管理者とよく話し合った上で決定している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	幸いにして職員の移動は殆どなく、数年ぶりに昨年7月に1名の移動があっただけで、その後は職員も変わらずに勤務してくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の案内は全職員に提示しており、管理者含めて職員全員が学びたいと思った時には研修にいけるように全面支援している。本年度は認知症実践者研修に1名が参加している。	☒	スタッフ全員が順次認知症実践者研修に参加できるようにしたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	遠紋地区のグループホームが集まって、勉強会を毎月開いている。講師にも恵まれ、希望者は気軽に参加して自分をみがいている。	☐	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は職員関係に注目し、互いに高めあったり情報交換できる関係作りのためにアドバイスの広がりなどを想像しながら、適切な助言などに努めているつもりである。時には食事会なども持つが、少ない人数でシフト制なので全員参加は難しく、何度かに分けて雑談会のように集まっている。	☐	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者は運営者からホームを任せられており、管理者は個々の目標や現在をよく知った上で、より意欲的に働けるように研修等を活用して職員が自分自身を高められる工夫をしている。自分のために、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を勧めている。	☐	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時には御本人の気持ちを直接御本人からお聴きする事は難しい事が多く、御家族からの情報を元にした対応になるのだが、入居後は段階に応じた適切な対応を心がけている。直接的な会話などが難しい方・伝達方法が言語以外の方からは、行動から推測したりして先ずは見る・聴く・感じるを行ない、情報交換して、全職員が必要な情報を得るようにしている。	☐	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談に至る前からケアマネなどを通じて様々な情報は得ているのだが、直接伺う事はもちろんである。ただ聞くだけの段階から互いの信頼度に応じて、大切な情報が何であるかがわかってもらえるようになるので、欲しい情報や思いもかけない情報が入るのを喜びに感じている。	☐	

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お試し宿泊で様子を確認して入居が本人にとってよいかどうかの判断材料にしたり、入居後には以前に通っていたデイケア・デイサービスとの交流を行って徐々に環境を作っていったりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	特に近所に住んでいる方は入居前に遊びに来たり、散歩中に会話・挨拶したりと、交わる機会があるので、そのような機会を大いに利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	当GHの理念でもある“みんなで一緒に・・・助けあう関係”を心に常に持っており、人間同士としての関係を大切にするように心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	現在はもとより過去の若かった頃の入居者を尊敬したり懐かしがったりと、様々なエピソードを家族も職員も共に同じ様に感じあえるようになりたいので、後家族からの様々な情報が少しづつでも増えていくのが嬉しい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	認知症とわからなかった為に様々な思いがある御家族もおられるので、個人便りや施設便り・面会時の会話を通じて、現在の様子だけでなく認知症という病気についてもお知らせしております。聞いて・見て嬉しい言葉や表情を写真入りの便りで今後もお伝えして、関係がより一層深まる事を願っております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族の情報や本人の記憶を大切にし、地域からの入居者は昔馴染みの方とのつながりなどで今までを継続しながら、更に今後につなげる支援を心がけている。又、入居以前に利用していたデイケアやデイサービス等の介護サービスとの交流も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	寂しがり屋の方にはお世話好きな方と一緒に居られるように、楽しい時には一緒に楽しんでくれるような人と、等の心配りをしながらも一人になりたい時間などは一人になれるような心配りをする事などに気をつけて支援している。職員一人ひとりの気づきと適切な誘導で行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院や退所などの時にも職員はお見舞いや面会に行き、その時の様子などを家族に電話するなどして定期的に家族とつながっている。実際に退去して3年も経過し現在入院中の方の御家族からは、昨年末の開設5周年の時に、記念の立派な鉢植えのお花を贈っていただいたりしており感謝です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分で表せることが出来る方はいいいのだが、表出できない方の思いを汲み取れるように感じる心を大切にしている。担当制であるので、担当者は『大好きになる係』であり、一番大切に思い、嬉しい事をたくさん提供できるようにみんなが考えていくようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用しているが、入居時には基本情報を家族に記入して頂いている。しかし家族と同居してなくて、生活歴がわかりにくい方が多いのも現実です。入居生活の中で少しずつ情報を集めていって、職員や家族と共有していつている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録や申し送りを基にしてケアプランに活かせる情報伝達をしている。センター方式でBシートやCシート、Dシートを上手に活用したいのだが、まだまだ生かしきれて居ないのが残念です。	○	計画作成担当自身もまだしっかりとセンター方式をわかっていないので、今後もっとよくわかるようになって、職員にセンター方式に使い方・生かし方を伝えていかなければと思っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当制であり、毎月のカンファレンスや毎日朝夕の申し送りから明確にされた課題・本人の思い・職員の思い・家族の思いなどをケアマネと担当者が話し合いながら計画を作成している。家族にも見て頂き、最終的に互いの思いが一致したところで、完成となる。家族が見えたときに担当が居ない際には、管理者や他の介護職員が代わりに説明している。それは、毎日の申し送りや会議から全員が同じ事を思っているからこその事だと思っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	明らかに変化が大きい時には期間以内の介護計画の見直しも必要だが、一時的な変化の時には見直しまでいわずに一時的対応策を示して理解をしていただくこともある。長期間その状態が続きそうな時には見直しは必要と思っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人別の記録は毎日しており、朝夕の申し送りで情報の共有をしている。記録用紙にはプランの『どうなりたいか』を記入する欄を設けており、ケアプランを意識するように工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者と共に過ごす時間が少なかった御家族が来訪してくださった際には、久しぶりで会えた大切な日として、一緒に食事していただいたり入居者の部屋に泊まって布団を並べてやすんでいただくなどして安らぐひと時を提供出来るように支援をしたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	お一人で外に行きたい方のために『お願い』として、施設の電話番号などを記載したパンフレットを御近所や警察・役場などに置かせていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	サービスを活用しているわけではないが、日常的に地域のデイサービス・老人保健施設との交流がある。デイサービスの方が遊びに来たり、老人保健施設から遊びに来たり、こちらから行事に参加したりと、共に楽しませていただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域ケア会議として包括支援センターや地域の介護事業所関係者が会し、地域の高齢者のの情報交換などをする場では関係が持っていた。しかし希望が叶って、前回の地域運営推進会議で『しらかば』としてもようやく地域包括支援センターと関わったところであるので、今後はより身近に感じられるようになって行くものと思う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者によっては、入居後もかかりつけ医を継続している方もいるし、診療所に替えた方も居る。一階部分は診療所であるので、この安心で便利な環境は緊急時や普段の健康相談・管理に大いに役立っている。状態によっては診療所医師と、本人のかかりつけ医と、施設側との話し合いの上、もっとも適切な医療を受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院が遠軽学田病院でもあるので、何かの時には相談にのっていただいている。数年前には、服薬を減量するように調整してもらった事もある。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所としては非常勤であるが看護師がおり、毎週一回の勤務の中で入居者の健康管理や健康相談にのってもらっている。更に一階診療所の看護師にも健康管理や健康相談を日常的にお願いしており、職員は安心である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時にはなるべくお見舞いに行くようにし、家族が担当医師の説明を受ける時には出来るかぎり同席させてもらい、経過や予定などを伺っている。過去にもそうした事を入院の方がいるたびにしてきており、今後もするつもりである。認知症の方が入院治療する事の大変さを実感している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居して直ぐに医療連携についての説明をしている。その時には説明だけに終わっても、徐々におこってくる心身の変化に、その都度説明や話し合いをしながら互いの方向を一致するようにしている。職員ともその経過は全て共有しているので、変化にも対応しやすい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本年2月に、終末期の方をお世話した経験があるが、看取りまでは行かなかった。しかし、職員はいつでも何があってもみんながすぐに駆けつけて、御本人の安心する環境で出来るだけ最後まで居られる様にと、覚悟を決めて取り組んだ。結局最後は病院であったが、この経験は今後にも生かせる事であろうと思う。	○	入居時から終末期の意向を伺っているのだが、ここで終わりを迎えたいという方には、自分のにおいの染み付いた自分の部屋の自分の布団で終わりを迎えるということに今後とも、より人的・空間的・医療的環境整備をしてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	最近はこのような事例はないが、当然の事ながら当方が持っている情報は提供し、利用者のリロケーションダメージを最低限に止めるようにするつもりである。数年前に別なグループホームに行った方には、相手のホームにセンター方式のシートを渡した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は互いに尊重し合い、互いに何をしようとしているかなどの心遣いをしながら、利用者についての情報交換などは小声で話したり、利用者を傷つけないような合図なども使っている。排泄などを記録しているチェック表は、直接利用者や職員以外の人達の目に触れぬように、表紙付きのを使っている。個人記録は事務室保管である。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	家族や本人から得た情報を基にして、興味のあった事やしていた事・おそらくしたいであろう事などに関われる環境作りをしている。外に出たがらない方には行きたくなる様な環境を提供している。例えば、トマトやイチゴを植えて収穫するために外に行って見る事とか。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のペースや習慣を大切にその動きを感じながら職員側が合わせていくと、穏やかな時間が得られやすいと実感できる。感じるための職員間の、小さなことも含めた情報交換・申し送りはもっとも大切であると思っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	女性は現在は目の前にある美容院から出張美容で来てもらっているが、男性は自分で出向いて理髪している。パーマをかけに御家族と一緒に行きなれた美容室に行っている方は、偶然にも今来ていただいている美容師さんなので、なじみの関係では上手くいっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜を洗ったり切ったり、時には炒めたりと、その時・その方の状態に合った事を職員と一緒にします。食器拭きは、いつも決まって「手伝うかい？」と言ってきて、1日3回一緒にしてくれる方も居ります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は、好みのものを御家族からお聞きたり、様子を見ながら好きな飲み物を用意したりと、個人やその時に合わせている。又、誕生日やジンギスカンなどの時には、ビールを楽しむ方が現在は3人おり、乾杯して注ぎ合っています。嬉しそうですが、量的にはもう若くないので、程ほどにしております。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中は全員がトイレで排泄している。紙オムツを使っている、表情等で尿意・便意を感じとれるので、なるべくトイレでの排泄を長く続けたいと思っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜日以外は殆どの方が毎日入浴している。しかし日曜日は、楽しい事をみんなでする時間をもったり、家族の面会が多いことから、入らないことが多い。かといって、入浴が出来ない事はない。希望があったり、体調等でその日に入った方がいい方などは勿論入浴はしていただける。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	布団に入る時間などは、それまでの生活習慣を大切にしつつも、その時々状態を考えながら照明や音などに注意して心身を休めることができるような環境作りをしている。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	専業主婦の方は出来る範囲内での炊事(茶碗拭き等)・農家の方は草とり・信心深い方はお地藏様参り・動物好きはワンコとのふれあい・写真好きは写真コーナー・歌の好きな方は一緒に歌ったりと、皆さんそれぞれの楽しみ方を持っていてそれを応援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金を持っているのは現在は2名だけだが、職員が預かっている事を知っている方の中に入る。現金で買い物に行く方は1名おり、若い時からのように、『つけ』で買ってくる時もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の散歩やお地藏様参り、ワンコとのふれあい、買い物、図書館で本を借りたり返したり、畑のイチゴ収穫、草取りなど毎日それぞれの興味や体力に応じて出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節の風物見学（花を見に行く等）によくみんなで出かける。又、家族と年に必ず温泉旅行に行く方も居る。勿論お墓参りに行く方も居る。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	荷物のお礼に、着いたからと電話でお礼を言ったり、手紙は郵便で出したり、FAXでおくったりもしている。ご家族は喜んでくれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	もちろん、見えたときにはそれぞれに望ましいであろうと思うように飲み物やお茶うけでおもてなししている。来訪いただいたときには日常生活をお伝えしており、皆様には喜んでいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勿論である。身体拘束は勿論の事、言葉や薬による虐待は絶対しないようにとの職員間の思いは統一できており、理念にあるように『安心で安全なやさしい』生活を提供するようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は夜間を除いて鍵はかけないが、現在一人でこっそり外に出て行きたい方が居り、出て行くのはいいのだが危険なので出入り口の見守り職員がシフトで決まっています、必ず一緒に散歩にいくようになっている。(その時の食事準備係が調理しながら出入り口の見守りをしている)		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	それぞれの生活歴や性格等を家族からの情報や入居後の観察から把握し、個人の生活を尊重しながらも安全な生活を送れるように支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	通常は何も問題の無いようなものでも、混乱期や認知状態が悪化した時には危険になるものもあるので、随時観察・話し合いしながら、申し送りや会議などで必要な方法をとっている。一時期刃物を使用時以外は届かない所にしまっていたこともあった。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じ た事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険があるので動かないようにしてほしい、などと間違った考えをせず、筋力 低下を招かないような活気あふれる生活を支援している。誤薬については間違わない ような工夫(一日分を用意する時・その時に飲む分を用意する時・今飲む時に必ず名 前と日にち等の確認をする)をしている。行方不明や火災などについてはマニュアル があり、何かがあった時には慌てない方法をとっている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている。	勿論急変や事故に備えてのマニュアルはあるが、毎年一回、利用者を含めて避難・ 消火訓練をしているし、救急救命講習は職員全員が代わる代わる受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を身につけ、日 ごろより地域の人々の協力を得られるよう働 きかけている。	地域町内会のお隣さんやお向かいさんには一軒一軒有事の際のお願いに行き、皆さ ん快く協力を受けてくれました。火事の非常ベルも外に聞こえるようにしているので、 非常ベルがなったときの対応についても「私は年取って体は使えないから出てきたじ いちゃんばあちゃんを我が家を守るから」と言ってくれたりしています。目の前の商店 の人は「聞こえたら直ぐ行くから」といってくれます。更にグループ内で近くにある老 人保健施設とも緊急通報や救助などで協力体制は整っている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族 等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	歩行の不安定な方でも手つなぎ歩行を体力筋力維持の為に続けて行きたい事・散歩 が大好きな方が一人で出て行きたがる事・尿意便意はないが職員の観察で排泄タイ ミングがわかるので体を抱えることの痛みを考慮しながらもトイレでの排泄を続けたい 事などを説明して、職員の思いと、御家族の思いと、更にリスクについても説明相談 の上、自分らしい生活を続けられる工夫をしている。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	毎日測定しているバイタルから、顔色から、表情から、言動から、食欲からの心身的 変化等についてはケース記録に記入されており、毎日朝夕に申し送りされている。一 時的なものから長期的に変化がみられる事まで、会議等でしっかりと話し合われて観 察しながら同じ対応をするようになっている。又少しの異変にも気付いた時には看護 師や、診療所の看護師にいつでも相談できるようになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている。	薬名・数量・目的・副作用等全てを記憶している事が望ましいが、薬名は覚えきれな い様子。しかし目的や服用数量・副作用については全職員がしっかりとわかっている。 ケース記録にファイルして、常に目に入るようになっている。服用時には日に ち・名前等を確認して渡し、飲んだことも確認するようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘になると不快感から攻撃的になったり、落ちつきが無くなったり等の心身に変 化が見られることが多く、かといって下剤に頼りっきりにはなりたくないで、個人の水 分の摂取目標量を設定したり、午後からの体操やゲームなどで運動したり、散歩や買 い物で体を動かしたり、果物やヨーグルトを摂ったりと、自然排便に至るように支援し ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	先日歯科検診があり、お手伝いする方々は清潔にしてあげられるのだが、自分で行っている方の口腔内清潔保持が特に大切であると実感した。毎食後には、プライドを傷つけないような対応で、できるだけ歯磨き・入れ歯洗浄などをして頂けるような言葉がけをするようにしている。言葉をかけるときのタイミングも大切であると思うので、各個人のタイミングを見計らって、できるだけ自分でやらせようようにしている。出来ないときにはお手伝いをしている。		利用者全員の残存歯を清潔に出来るように、全介助の方でうがいの出来ない方の口腔内清潔の指導を保健所に依頼している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	朝早くにコーヒーを飲む方、食事を摂らない時には牛乳をすすめると飲む方、お茶が嫌いな方、オニギリにすると自分で食べれる方、勿論お粥がいい方、摂取してはいけない食品等家族からお聞きしたことや入居後に観察してわかったことなどを基にして、水分栄養摂取の支援をしている。個人の水分や栄養の摂取量は目当てとして持っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルは出来ており、その時に流行っている感染症については、その都度職員に周知している。家族にも、施設だより等でお知らせしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎日買い物に行き、できるだけ新鮮な食材を使っている。冷凍庫は持っていないので、冷凍保存品は最低限に止めている。まな板や布きんは毎日消毒しており、食器もその都度消毒している。職員は勿論の事、利用者が調理・後片付けを手伝ってくれる時には、手洗いをしっかりとるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ささやかながらもお花を植えたり、近所の子供さんの大好きな大きな風車を飾ったり、ベンチを設置していたり、昨年立派に育ったトマトを今年も植えたりと、診療所の患者さんや近所の子供さんたちとの話題づくりに一役買っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	背中ながらに調理の音を聞きながら、匂いを感じながら、テレビを見たりおしゃべりしている。食卓や洗面所にはいつも季節の花が飾られ、廊下には皆さんで出かけたときの笑顔の写真が飾られたりと、安らぎを提供している。季節毎の行事のタペストリーや飾り物を飾ったりと、雰囲気も大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容(既に取り組んでいる事も含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ周りのソファや、眺めのいい食卓テーブル、診療所の玄関真上の窓際、ベランダ出入り口のソファ等に座れる場所があり、それぞれに気の合う友達との語らいやホッとする一人の時間が毎日毎日その場で繰り返されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	皆さん自分の馴染んだ椅子や布団、タンスなどに囲まれて暮らしている。テレビ好きの方はテレビを自室で好きなようにテレビを楽しんだりしている。時には自室にお茶や食事をお持ちすることもある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に温湿度計があり、季節に応じて温度や湿度を管理している。常に寒いと言いがちな高齢者ですが、掃除のときくらいは換気のために窓を開けるなどしている。冬期間は暖房で下がった湿度を、洗濯物を干すことで湿度アップを図っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりが付いていたり、トイレは車椅子が入りやすいようにカーテンにしたり、トイレの出入り口が一つなので小窓をつけたり、歩けない人のために階段昇降機が設置されていたりと、改築施設なので、思うようにはできないのですが、できる範囲内の安全の工夫はしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや洗面所の場所をお知らせする張り紙をしている。自室がわからない方には表札などを用意して、わかる工夫をしている。夜間はトイレ入り口真上に照明があり、わかりやすいようにしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関周りには花があり、ベンチがあり、苺が植えてあり、トマトがあり、草取りや収穫にと、皆さんが楽しめるような工夫をしている。玄関周囲にはベンチがあり、疲れた足を休めることができる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族 ☐ ②家族の2／3くらい ☐ ③家族の1／3くらい ☐ ④ほとんどできていない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度・・・家族は毎週が多く、地域の方は週に2～3回くらい ☐ ③たまに ☐ ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2／3くらいが ☐ ③職員の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2／3くらいが ☐ ③利用者の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2／3くらいが ☐ ③家族等の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

安心して安全な毎日を提供するために、全職員が入居者一人ひとりの望みや御家族の望みを、それぞれが機会あれば直に拝聴するようにしている。どの職員も家族や入居者の身になって考えたり行動できたりできる事を目指している。職員と利用者は同居人と言う気持ちで、利用者の楽しい・嬉しい・感じる心を大切にするようにしている。